

# Library News

川口市立高校

No.1 2024年度 5月号 3年次図書委員

新学期が始まりました！

春は様々な人との出会いの季節ですね。

新しい出会いを楽しみつつ、本との出会いの季節にしてみたいかがでしょうか。

## 「また次の春へ」 重松清 文藝春秋

この本は東日本大震災を元にした7編の短編集です。

「俺、高校に受かったら、本とか読もうっと」。幼馴染みの慎也は無事合格したのに、卒業式の午後、浜で行方不明になった。分厚い小説を貸してあげていたのに、読めないままだったかな。彼のお母さんは、まだ息子の部屋を片付けられずにいる(「しおり」)

震災から13年経った今、日常は変わらず進み、忙しく日々を過ごしているけれど、あの日のことはきっと誰もが覚えていてのことでしょう。たった一日で生活の全てを失ってしまった人達。突然の喪失を前に、迷いながら、泣きながら、一歩を踏み出す私たちの物語集です。



## 「52 ヘルツのクジラたち」 町田そのこ 中央公論新社

2021年本屋大賞を受賞した作品。

52ヘルツのクジラとは一頭の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ。たくさんの仲間がいるはずなのに何も届かない、何も届けられない。そのため、世界で一番孤独だと言われています。自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴湖と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会い、新たな魂の物語が生まれる話。

一度読み出したら止まらない、涙なしでは読むことのできない一冊です。



### コラム

みなさんは太宰治を知っていますか？きっと知らない人のほうが少ないと思います。そんな太宰治の代表作の一つ、「人間失格」を最近読みました。読み進めていくほど、人間の弱さ、愚かさが表現されていてなんだかはっとさせられるような内容でした。また、始まりの「恥の多い生涯を送って来ました」という一文は衝撃が強かったです。最初の一文を読んだだけで太宰治の文才を感じました。きっと普通の人よりも濃い人生を経験しているのだろうなと思います。ぜひ時間がある人は「人間失格」読んでみてください。ちなみに、「人間失格」の主人公は太宰治の分身といわれているそうです。彼はさぞかしモテの人生を歩んでいたのでしょうか。